



子宮鏡検査をお受けになる患者さんへ

子宮鏡とは？

子宮鏡は、直径 3mm の細いファイバースコープで、子宮口から子宮内に挿入し、直接子宮の内腔を観察することができる内視鏡の一つです。当科で用いているものは「軟性鏡」と呼ばれる先端が曲がるタイプで、これにより子宮内をくまなく観察することができます。

子宮鏡の目的は？

子宮鏡が対象とする疾患には以下のものがあります。

- ・ 子宮筋腫(粘膜下筋腫)
- ・ 子宮内膜ポリープ
- ・ 子宮奇形
- ・ その他の子宮内腔の病変

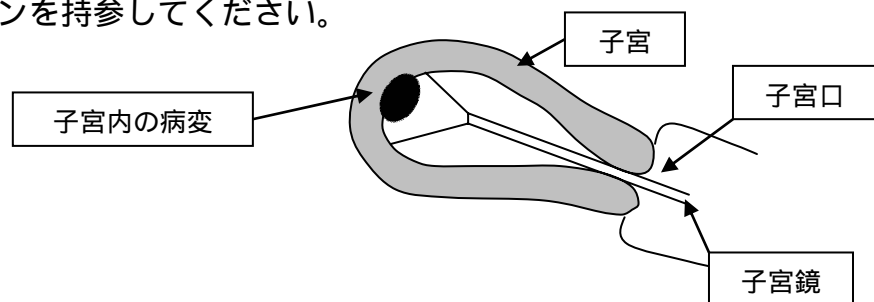
上記の疾患は、内診・経膈超音波検査でその病変の存在が疑われます。子宮鏡ではその病変を肉眼的に確認し、適切な治療方針を立てることができます。例えば、子宮筋腫では、子宮内腔への突出度をみることで、子宮鏡下に摘出できるか、腹腔鏡下に摘出すべきか、などの判断に役立ちます。

検査はいつでも可能？

原則的に毎週火曜日の午前 8 時 30 分からの予約制で、当科外来で行います。月経周期に関わらず検査は可能ですが、月経の直後が、子宮腔内が詳細に観察できるため、最も適しています。また検査前には、あらかじめ、貧血や炎症症状がないか、血液を介する病気(B 型肝炎、C 型肝炎、梅毒)がないか採血して調べます。

検査の日の持ち物は？

生理用のナプキンを持参してください。



検査の方法は？

腔鏡をかけ、腔内を消毒した後に、細いスコープを子宮後から子宮の中に入れます。このとき、生理食塩水を子宮の中に充満させ、子宮内を観察します。

検査は痛いのか？

大変細いスコープを用いるため、分娩の経験のない方でも、あらかじめ子宮口を広げておく必要がなく、検査に伴う痛みもほとんどありません。局所麻酔や痛み止めも必要ありません。検査は5分から15分ほどで終了します。ご希望であれば検査をしながら、モニターと一緒に子宮腔内をみることもできます。

検査には入院が必要？

もちろん、入院の必要はなく、検査結果の説明の後お帰り頂けます。

検査の危険性は？

ほとんどありません。まれに子宮に傷を付けたり、腔内の細菌がお腹の中に広がり炎症を起こすことが報告されています。

検査後の注意点は？

安静や食事の注意はありません。通常的生活を送って下さい。

検査に先立ち、腔内を十分に消毒しますが、腔内の細菌が子宮・卵管をとお腹の中に広がることもあるため、検査後2日間抗生物質を内服してください。また、念のため、検査当日は浴槽につからず、シャワーのみとしてください。もし、ご帰宅後、月経と同等の出血や、下腹痛、発熱がみられたときには、夜中でも構いませんから、病院に連絡してください。検査の後の外来受診は、検査時に説明します。

貴女の予約は 月 日 (火) 時 分 です

予約時間の15分前までに1F診察受付を「検査」でお済ませ下さい。

検査後には子宮鏡の所見に応じた治療方針を相談します。わからないことがあれば担当医にご遠慮なくお聞き下さい。